

**農林水産省（農業土木・調査計画系）
選考採用（社会人経験者採用）
入省者の紹介**

日本の**食**と豊かな**環境**を
引き継いでいくための
仕事をしていることに
やりがいを感じています。



東北農政局
北上土地改良調査管理事務所
旧迫川支所 保全整備係長（※執筆当時）

■現在の仕事内容

「国営施設応急対策事業旧迫川地区」で、私は主に幹線用水路工事の監督として、必要な各種協議（河川協議、道路協議、電力協議、用地協議）や工事の進捗管理、安全管理、積算や図面修正などを行っています。

■バックグラウンド

高校卒業後に陸上自衛隊に入隊し、公務員としての意識や服務規則を身につけました。その経験は今活かされていると感じています。任期満了後は、前職である専門商社の工事課で、現場監督として働いていました。そこで身につけた基本的な土木の知識や積算、図面作成などの経験も活かされていると感じています。

しかし入省前は、ほとんど農業土木の知識はなく、また、農林水産省の仕事の流れなどもわからなかったことを考えると、転職を考えている方がどんなバックグラウンドを持っていたとしても、社会人で培った経験があれば、どんなことでも農林水産省で活かすことができると思います。

■転職の理由

前職では、一つの工事において一部にしか関わることができなかったため、もっと大きな工事のすべてに関わりたと思っていました。そんな時、同僚から「一緒に受けてみないか」と誘われ、試験を受験しました。

転職すると給与が下がることや、今後、単身赴任になり家族に負担をかけてしまうと考えましたが、家族の理解もあり、やりたい仕事に転職できてよかったと思っています。

■入省後、困難や難しさを感じた経験

入省1年目は、同期と一緒に農政局配属になり、研修もビジネスマナーから基本的な農林水産省の知識・用語まで教わることができ、困難に感じることはありませんでした。

2年目は、事業所配属になり、選考採用＝即戦力であり、役職もついているため、他の人と同レベルの仕事を求められることが、当初は難しくもあり、困難を感じました。着任早々、早期発注工事の質問回答に始まり、契約、円滑化会議、監督業務、契約内容の変更対応と大変でしたが、わからないことは正直に聞き、上司や先輩、同期に助けられ教えてもらいながら乗り切りました。

■現在の環境

職場には車で通勤しています。支所長、専門官、私、臨時職員の4名が勤務しており、とても雰囲気がよく、風通しの良い職場です。支所長、専門官は、豊富な経験と知識を持っているため、日々色々なことを質問し、技術を吸収させてもらっています。

休日出勤は1度もないです。地権者説明などが夜になる場合は残業になりますが、それ以外は残業はないです。福利厚生も手厚く、満足しています。休日は長男が野球、長女がテニスをやっているため、付添、送迎、応援に追われています。



自身の能力（経験や技能）をより活かすことができる所に**ステップアップ**したい！

近畿農政局

加古川水系広域農業水利施設総合管理所
砥屋ダム管理所 機械電気係長（※執筆当時）

R5 入省
S・Kさん

■現在の環境

同ダム勤務の他の方はダム管理勤務歴が長く、受益地の歴史や背景、ダム施設にも精通しているため話を聞くだけでも非常にためになります。

現在の職場はどうしても天候に左右されるため、残業や休日出勤はあります。ですが、それは（民間等限らず）どんな職種でも様々な理由（繁忙期や突発対応）で起こり得る事なので許容されるものだと思います。

■転職の理由

自身の能力（経験や技能）をより活かすことができる所にステップアップしたいという気持ちが転職した理由です。農林水産省を選択した理由は、WEB開催の説明会がきっかけです。説明会が終わった当初は正直なところ、選考採用試験を受けるつもりはありませんでしたが、説明会后アンケート回答にて私の能力が活かせる所が多いにあると丁寧に説明いただいた点が試験受験の後押しとなりました。

■現在の仕事内容

主はダム管理業務です。水利使用規則に則った合理的な「取水・貯水」、受益者さん(土地改良区)の利水計画と調整を図った「配水」作業、ダムを機能を維持するための維持管理作業が中心となっています。特に、配水作業は地域の受益者さんに営農を滞りなくして頂くために非常に重要です。その他として、今後更新する設備の発注作業（資料作成や設計業務成果精査）や受益地内小学校（4年生）のダム見学時の説明担当も行っています。

■バックグラウンド

前職は民間ポンプメーカーで主に電気設計に関する業務に従事していました。ダム設備には電気設備やポンプが含まれているため、見知っている物が非常に多く、前職で得た知見や経験を活かせる場面が多く非常に役に立っています。

■入省後、困難や難しさを感じた経験

ダムに配属されて1年目で、ダム現地設備や電気機械関係において、業務上で悩ましい点や不明点がある場合、質問・相談することが多く、今年度は自己研鑽がてら自身が持っている資格の上位資格（第二種電気主任技術者）を受験しています。



取水作業中
（揚水機場取水ポンプ
運転切替作業）

■農林水産省で働く醍醐味、やりがい

農林水産省の業務全ては（自身を含めた）多くの人の暮らし（衣食住の食）に直結しています。その中でも、ダム管理は営農者の方々に安定的に農業、食糧生産を続けて頂くための重要な業務の1つで、こういったクリティカルな業務に携わる事ができる点は醍醐味です。

また、ダム管理は農林水産省に限らず、全省庁で考えても中々従事できる事ではないと思いますので、そのような貴重な経験を積める点も魅力ではないかと思います。

— 入省者 Interview —

■現在の仕事内容

現在は多面的機能支払交付金を担当しています。農村地域においては過疎化や高齢化、混住化の進行に伴い集落機能が低下しています。農業・農村の有する多面的機能の発揮を持続的にするために、「多面的機能支払交付金」を交付し、共同活動に取り組んでいただけるように県、市町村及び活動組織の後押しを行っています。

■バックグラウンド

前職は市役所勤務しており、公共工事の設計や施工監理に従事していました。直近では農村整備事業や農地・農業用施設の災害復旧事業などに従事していました。農林水産省に入省し約半年が経過しましたが、行政の経験は非常に役に立っており、入省後も行政機関という点では大きな変化は感じませんでした。

■農林水産省を志望した理由

誰しもが美味しいものを食べるときには幸せを感じると思います。農業土木は幸せを創ることができる職種であると感じ、農林水産省に転職しました。また、近年農業を取り巻く環境は厳しさを増しており、専門知識を活かしながら農村環境の整備に従事したいと考えています。

■現在の環境

入省後に地方公共団体と国の職員では大きな隔たりを想像していましたが、職場の雰囲気は非常によく、アットホームな雰囲気です。九州管内や本省などに出張する機会が多く、少し残業はありますが、土日は実家に帰ることができるため、気持ちの面では切り替えが来ています。

美味しいものを食べるときに感じる**幸せ**、
農業土木は**幸せを創**ることができる職種です。



九州農政局 農村振興部
農地整備課 保全指導係長（※執筆当時）

R6入省
K・Sさん

■入省後、困難や難しさを感じた経験

多面的機能交付金について、県や市町村から多くの質疑がありますが、現在整備されているQ&Aや上司、適宜本省に照会することにより問題解決に当たっています。現在は、経験値が高くなったことで、難しさの点ではあまり感じることは無くなりました。

■農林水産省で働く醍醐味、やりがい

地方自治体とは異なり国の事業はスケールが大きいです。そのため、物事を多角的に考える必要があり、その地域にあった事業の進め方などを考えなければなりません。また、事業が農業生産基盤に直接関係してくることから、事業完了後に生産量の増加や、担い手の営農意欲の向上が感じられることは国家公務員になった醍醐味であると思います。

■現在の仕事内容

所属する土地改良技術事務所システム開発課は、様々な業務に関連するシステムの開発、運用、保守を行う部署で、私は、農業農村整備事業総合支援システム（NNシステム）の中の標準積算システムを担当し、利用者からの問合せや障害対応、システムの改修などを行っています。

今年度、NNシステムを新システムに移行するにあたり、昨年度から各種動作の確認や新システムの操作に慣れるための試行的運用を行い、マニュアルの整備、新システムへの移行手順の作成などを行ってきました。

■バックグラウンド、キャリア展望

前職は民間企業で20年にわたり、ネットワークやセキュリティ関連のシステムエンジニア（SE）として、要件定義から、設計、構築、運用まで、様々なプロジェクトを経験してきました。前職と分野の違いはありますが、SEとしての経験は活かされています。

今日、様々な業界で人手不足が問題となっており、農業でも深刻化しています。農林水産省はスマート農業や農業DXなどで人手不足を補う取り組みを行っておりますが、同じデジタルの分野で、私のSEとしての経験や知識を活かしていきたいです。

■入省後、難しさや戸惑いを感じた経験

民間企業(会社員)と公務員では大きく違うところがあると感じました。例えば、民間企業であれば一足飛びに動けるような案件でも、公務員は法に定められている手順を踏んで一步一步進めて行く必要があります。

また、技術職で採用されましたが、農業土木に一切関わってこなかったので用語から分からず、「積算とは…」というところからのスタートでした。難しい面もありますが、分からないことは周りの方に聞いて乗り切っています。

■現在の環境

昨年度は新システムへの移行準備があり、残業は最長で月35時間、休日出勤もありましたが、今年度は通常業務で、残業は月に数時間、多くて10時間程度です。

休日は、スポーツセンターでトレーニングしています。会社員時代は、休日出勤も多くスポーツなどはできなかったのですが、今は家族時間（旅行など）も多く持てるようになりました。



「食」をつうじて、人とのつながりを感じ、社会に貢献できることはうれしい限りです。

関東農政局土地改良技術事務所

システム開発課

積算システム第1係長（※執筆当時）

R3入省

M・Yさん

■農林水産省で働く醍醐味、発見した楽しみ

農林水産省では、定期的に統計情報を発表しているので、米の価格や野菜の価格に関心を持つようになりました。今月は〇〇が安い、〇〇が高いなど、妻と共有して家計の助けに一役かっています、というのは大袈裟ですが、価格変動の理由などが知れて興味深いです。

農林水産省主催のイベントでは、ご当地マルシェやキッチンカーが出展され、楽しませてもらっています。本省の食堂ランチがすごく美味しい、と聞くので、本省に行った際は食べてみたいです。

農林水産省に興味をもった方々へ



入省前は知り合いもないし、職場のコミュニティもうまくいかないのではないかと不安ばかりでした。しかし、職員の皆さんも良い方ばかりで、楽しく仕事をすることが出来ています。また、入省してみてもう思うことは、研修も充実していることや、多くの情報が得られることで、農業土木技術者としても成長を感じています。国でしか得られない経験ができるので、興味がある方は一緒に未来の農業を発展させるために一緒に頑張りましょう！

農林水産省は、私のような農林水産関係に関わったことのない素人でも温かく迎えてくださる懐の深さがあります。少しでも農林水産省に興味を持っていた方は、一つの選択肢としてご検討いただき、是非、ご応募をお願いします！

国家公務員に転職と言うと、敷居が高く、周りは固く難しい人達しかいないイメージがあると思いますが、そんなことは全くないです。

選考採用者でも1年目は新卒の同期と同じ研修や選考採用者独自の研修あり、農林水産省について知識がほとんどなくても1から学ぶ環境が整っています。

社会人経験者としての行動力や、常に学ぶ姿勢、公共の精神を持っていればすぐに職場にも慣れることができます。

未来の子どもたちに日本の食と豊かな環境を引き継いでいく仕事は農林水産省でしかできないですし、今の時代を生きている私たちの使命だと思いますので、一緒に日本の未来のために働きましょう。

— 農林水産省（農業土木・調査計画系）選考採用試験 連絡先 —

東北農政局農村振興部設計課
TEL：022-263-1111（内線4281、4157）

東海農政局農村振興部設計課
TEL：052-223-4633

九州農政局農村振興部設計課
TEL：096-300-6391

関東農政局農村振興部設計課
TEL：048-740-0531

近畿農政局農村振興部設計課
TEL：075-414-9513

農林水産省大臣官房秘書課（農業工学系）
TEL：03-3502-5568
Mail：saiyou_noudo@maff.go.jp

北陸農政局農村振興部設計課
TEL：076-263-2161（内線3512）

中国四国農政局農村振興部設計課
TEL：086-224-9419